

令和元年度 栗東市バス対策地域協議会(第2回)

議 事 録

[開催日時] 令和元年9月9日(月) 14:00～

[開催場所] 栗東市役所2階 第1会議室

[出席者] 清水会長、坂口副会長、酒井委員、芝委員、永井委員(代理者 杉江氏出席)、
平田委員、高田委員、大西真委員(代理者 中島氏出席)、
北村委員(代理者 近藤氏出席)、隠岐委員、大西勇委員、
野村委員、濱田委員
野村市長、柳建設部長(委員)、事務局(建設部交通政策課)

[欠席者] 相井委員、鶴飼委員、坂田委員

[会議概要]

1. 開 会
2. 挨拶等
 - ・清水会長挨拶
 - ・野村市長挨拶
 - ・帝産湖南交通株式会社 中島顧問より、令和元年8月22日のくりちゃんバス「草津駅・手原線」人身事故についての説明
4. 報告事項
 - (1) 栗東市バス交通体系計画の見直しに係るアンケート調査結果について
 - (2) 交通事業者からの地域公共交通に関する報告について
5. 協議事項
 - (1) 栗東市バス交通体系計画の見直しの考え方及び基本方針等(案)
5. その他
6. 閉 会
 - ・坂口副会長挨拶

[議事内容]

1. 開 会

2. 挨拶

3. 報告事項

(1) 栗東市バス交通体系計画の見直しに係るアンケート調査結果について

主な意見、質疑応答など

○特に意見無し。

(2) 交通事業者からの地域公共交通に関する報告

○近江鉄道からの報告

○帝産湖南交通からの報告

○滋賀バスからの報告

○帝産タクシーからの報告

4. 協議事項

(1) 栗東市バス交通体系計画の見直しの考え方及び基本方針等（案）について

○事務局より内容説明

主な意見、質疑応答など

○（委員より）「施策(案)」では、「地域公共交通網の利便性向上」の施策例として、「既存バス路線へのバス停留所増設」「各地域における地域公共交通確保に向けたバス路線延伸等の検討」「隣接市と連携したバス運行の継続・拡大」が挙げられているが、これは運転手の労働条件・労働環境に関係してくる。乗務員の確保にかかる問題を解決しなければ、机上の空論になるため、事業者にしっかりと相談してもらわないと困る。

→（委員より）「持続可能な」と書いてあるので、絵に描いた餅にならないよう、十分に事業者と話した上で詰めていただきたい。

- （委員より）「バス等の利用環境改善」の施策例として、「多様な運賃決済検討(ICカード、定期券等)」が挙げられているが、草津駅・南草津駅・瀬田駅周辺など一部地域で導入されているICカードを、栗東市でも考えているということか。
- （事務局より）今すぐではないが、今後、近隣市町の動向も見ながら、検討したいと思う。
- （委員より）くりちゃんバスに限定するか。
- （事務局より）そのとおりです。
- （委員より）平成15年4月には、既存事業者の路線撤退による空白区間を埋めるために行政が検討をした中で、コミュニティバス案が出てきた。市域を大宝、金勝、治田、葉山に4分割して、そこの空白状況を見てコミュニティバスを循環させていた。
- しかし、それでは無駄が多いということで、市役所等の乗り継ぎ拠点が設けられたわけです。問題点が挙げられてはいますが、私には当初の区分けだけで、ずっと進んできたような感じがする。
- （委員より）今の質問は、極端に言えば、くりちゃんバスの廃止も含めた考え方で進めていくのか、国の予算がついたから、維持を前提に部分的な手直しだけをしていくのかという話である。要するに、発想を大きく変えて、固定観念にこだわらずに進めていくのかという事務局への覚悟を聞いている。
- （事務局より）平成15年当時の状況とは変わってきており、今後、ますます高齢化率が上がると予想されている。その状況も見据え、乗務員確保の問題もあるが、もう一度、見直して、より利便性の高い交通体系計画にしなければならないと思っている。
- （委員より）資料2には、くりちゃんバスとして具体的な基本計画等を出してきていますが、本来は、全体のまちの基本構想としての総合計画や都市計画マスタープランを踏まえ、くりちゃんバスの具体的な計画が出されるべきである。ところが、上位計画は議論の最中である。そのため、上位計画である、総合計画と都市計画マスタープランとの関連性があるため、今日は資料2・資料3全体を承認するのではなく方向性だけをご承認いただくということである。
- その際は、事業者や各委員が言われたように、15年前にできたくりちゃんバスについて、今までのようなバンドエイドを貼りながら進めてきた固定観念から離れて、大規模な手術までしていく考え方で進めてほしいということです。
- 私は当協議会に12～13年参加していますが、くりちゃんバスの平均乗車率は3人を越えたことが無い。ずっと2人台で、路線によっては、1人台もある。バス車両を小さくして経費を抑えたというのではなく、たくさんの人に利用してもらえるようにする

ことが重要である。例えば、市役所職員がくりちゃんバスで通勤するくらいのことをしなければ、利用者は増えない。

また、個人のクルマが自動運転になれば、好きな時に好きな所へ行けるようになるので、公共交通はますます厳しくなるのではないか。

上位計画が決まったら、それらを踏まえて、固定観念にとらわれずに抜本的な見直しをしてほしい。

- （委員より）金勝地域は、くりちゃんタクシーではなく、以前と同様に、成谷からコミセン金勝までバスを運行してほしいと当初から言い続けている。一度、お試しでもいいので、走らせてもらいたいと、ずっと言い続けている。事業者の企業努力ではなく、例えば、バスを通すために、自治会の皆様にできるだけ乗ってもらう等の努力が必要である。

- （委員より）資料 3 には、今後の方向性が示されているが、これに対する現在の帝産の考え方を今後の参考にさせていただければと思う。

「草津駅・手原線」は、JR との接続を良くするのは当然である。希望に沿えるよう現在検討中であるが、乗務員の休憩時間減少等で負荷を与える等、あまり好ましくない運行状況になるのも困るので、その点だけがネックになる。

「治田循環線」「葉山循環線」については、確かに不便な地域があり、既存のルート上でのバス停増設で地域の利便性が増すのであれば、当然の話だと思う。

「葉山循環線」の延伸は、地域のことを考えたら良いことだとは思いますが、現在どおり治田循環線・葉山循環線あわせて車両 1 台で運行することは、無理である。できる限りのことはするが、車両と運転手、栗東市全体の方針を十分に検討して、示してほしい。

- （委員より）交通体系の見直しの話が出てきましたが、今後のスケジュールをどのように考えているのか。

→（事務局より）今年度は、バス協議会を 4 回開催予定である。

今回お示しした方針(案)をもとに、次回は具体的な計画を提示したいと考えている。最終的には、調整等が順調であれば、令和 2 年 10 月から、新しいダイヤ・路線で運行していきたいと考えている。

→（委員より）新しい基本方針に基づいた、令和 2 年 10 月からの体系見直しというのは、資料 3「交通体系の見直しにかかる路線毎の考え方(イメージ)」でしょうか。

→（事務局より）資料 3 をもとに詳細を検討していく予定ですが、まだ具体的なもの

はありません。

- （会長より）今回は、資料2「栗東市バス交通体系見直しの考え方及び基本方針等(案)」の1頁に基づいて進めていくことを承認いただくとともに、資料3については、現段階での事務局案ということで、もっと具体的に話を詰めて、次回に持ち越すということにしたいと思います。資料2について、ご承認いただけますか。

→（委員一同）「異議なしの声」

☆栗東市バス交通体系計画の見直しの考え方及び基本方針等（案）について

・・・一部承認

5. その他

- （委員より）タクシー協会です。10月1日付での消費税増税にあわせて、タクシー運賃値上げを申請していきます。金額的には、約10円の値上げになると思います。

6. 閉会

以上